



2021年度 年主題		〈共に喜んで ~すべての歩みの中~〉	
0歳児 4月主題「はじめまして」/1・2歳児「であう」	月のねがい	3・4・5歳児 4月主題 「神さまの愛に包まれて」	月のねがい
◎神さまから授かったいのちとして大切にされる。(0)	◎新しい環境の中で友だちや保育者に出会う。(0)	◎一人ひとりが、保育者や園の環境を通して神さまから愛されていると感じ、安心して過ごす。(3)	◎存在そのものが受け止められる中で、好きな遊びや場所が見つかる。(3)
◎保育者の祈りや賛美する姿を通して、神さまに出会う。(1.2)	◎新しい環境や友だちに出会い、親しみをもつ。(1.2)	◎絵本やわらべ歌などを通して、保育者とのふれ合いを喜ぶ。(3)	◎日々の生活の中や礼拝の中で、一人ひとりを知り愛して下さる神さま・イエス様を感じて歩む。(4.5)
◎受け入れられていると感じ、安心する。(1.2)		◎置かれた環境の中で、安心して過ごし遊び始めるとともに、進級したことを喜び、はりきって過ごす。(4.5)	◎春から初夏の自然の中に身を置き、楽しむ。(4.5)



自然の中で心を動かす

先日、毎年春休みに行われるキリスト教保育連盟の研修会がありました。今年度はリモート研修ということで、出原 大先生という自然環境専門の先生の講話を通して、園内で学びの時を持つことができました。出原先生の言葉でとても印象に残っているのは、「小さな失敗をたくさんして、大きな失敗をしない」という言葉です。ついつい、失敗しないように…と、大人が先回りをしてしまうことが多いですが、それだと子どもは学ぶチャンスをなくしてしまいます。小さなハプニングやトラブルは、成長の一つと思って見守ることが、大人になって取り返しがつかなくなる前に対処できるのだとのこと。本当にそのとおりだなと思うのでした。また、幼少期は人生で一番心の動く時期であり、主体的に触れる時期。この時期に五感を通して「きれい!」「いいにおい!」「おもしろい音!」「ゴツゴツしてる!」「おいしい!」といった様々な感覚を体験することが何より大事なのだそうです。自然の中でふれ合うことで心が動かされ、それが興味関心につながり、豊かな感性が育まれていくとのことでした。

私は出原先生の普段の保育の様子を伺う中で、めいろうは本当に恵まれている環境で感謝すべきだということと同時に、この環境をまだまだ活かしてあげていないと感じました。草刈りや掃除をして環境を整える中で、気持ちよく過ごしていました。しかし、実は草も落ち葉も木の枝も子どもたちにとっては絶好の遊び道具の一つ。大きな立派な遊具がなくても、自然にある物で幾通りもの遊びが展開されるのだそうです。そう言えば、昔よく遊んでいた木の実で、「おなもみ」という服にくっつく実がありました。原っぱや公園に行けばたくさんあって、友だちにくっつけたり投げ合ったりをしたり…と楽しかったのですが、最近は「おなもみ」をほとんど見かけなくなりました。これは、子どもたちが外で遊ぶなくなった証なのだそうです。とても残念なことです。めいろうの自然豊かな環境をもっと活かせるように、私たち自身が自然に心を動かされながら、子どもたちと接していければと思います。2021年度もどうぞ宜しくお願い致します。 森山

今月の聖句 「わたしはよみがえりです。いのちです。」

ヨハネ 11:25

「いのち」とは何でしょうか。聖書では「いのち」にはいくつかの側面があると指摘されています。まずは肉体的いのちがあります。同時に、精神的いのちもあります。それを「魂」と呼ぶこともあります。「魂」という「いのち」は、私たちの存在の根幹になるものです。私たちの存在そのものとも言えます。それがなければ本当の自分として生きることが出来ないようなものです。どんなに肉体的に長生き出来たとしても、この最も大切な自分を手に入れて生きていなければ、「いのち」は半減してしまいます。その「魂」という「いのち」の基礎を形成するのが、まさに幼児期であり、幼児教育です。その時期に、子どもたちはその感性を磨かれ、情緒豊かになり、一人ひとりの人間形成の根幹部分が形造られていきます。家庭の中でもそうですが、家庭では体験し得ないようなより広い人間関係が展開されることも園の中で、様々な刺激を受けながら自我の目覚めと他者を尊重する思いが開花していきます。そこで「いのち」を体感し、体験していくのです。そのような「いのち」を育むことの出来る子どもは、大人に成長する過程の中で、様々な艱難や壁にぶち当たったとしても、それに押し潰されず、それを乗り越える力を身に付けます。まさに「いのち」を身につけるのです。子どもたちは、そういう意味で、可能性の宝庫です。その子のその子らしさを見出し、その個性を伸ばしてあげられるように、子どもの成長を見守りたいのです。

西之表基督教会 協力牧師 池田基宣

4月の行事予定

10日(土)	入園式、クラス会(親子で降園)
12~16日	新入園児午前保育(1号)
13日(火)	田植え
24日(土)	親子遠足、父母会総会
27日(火)	4月誕生会

5月の行事予定

11~21日	家庭訪問
13日(木)	弁当日
14日(金)	5月誕生会
20日(木)	弁当日
24~28日	フリー参観週間
27日(木)	交通安全教室
28日(金)	前期内科検診
29日(土)	不審者対応研修(休業依頼)



入園式



お母さんはきれいな空気のようにやさしい愛を一日じゅう注いでいる。あたたかい空気のようにうれしい愛を一日じゅう吸っている。どちらも気がつかずに

空気が 河野進

交通安全教室



親子遠足



田植え



令和3年度新学期がスタートしました

入園した子どもたちは保護者と離れることや、園生活への見通しが持てないことによる不安が大きいことが多いです。泣いて保育者のそばから離れられない子どもも多くいることでしょう。保育者はそのような不安な気持ちを受け止めつつ、園が子どもたちの居場所になるよう支えることが一番の狙いになります。そのために保育者は子どもたちを取り巻く身近な物との出会いを支えていきます。その時に大切にしたいのは「どんなものに関わってもいいんだよ」というメッセージを伝える事だと思っています。園庭に出ると、砂場、泥、ダンゴムシ、テントウムシ等が待っています。それらに心動かされる子どもも多いでしょう。その際に「大丈夫だよ」と心の後押しをしてあげることによって子どもたちは安心して身近な環境に心を開き、自分の力を発揮してあそぶようになり、そのことで、園が居場所となっていきます。



”保育者と一緒に過ごしながら、親しみを持つ”

泣いているときに抱っこしたり、歌を歌ったり…。そのように「保育者と一緒に過ごしながら親しみを持つ」ことをこの時期のねらいとします。この時期の保育者は、実際、猫の手も借りたいぐらい忙しいです。からだは一つですが、子どもたちひとり一人と向き合っていくながら信頼関係を築いて行きます。十分に答えられず子どもに翻弄されることもしばしばです。そんなとき、スキンシップや、ユーモアあるあそびを通して、笑い合ったりすることで、次第に「園が大好き。先生大好き」な子どもになっていきます。



ゆったりとした気持ちで、子どもたちが居場所を見つけあそびを見つけて動き出していけるよう、見守り、応援していきたいものです。「身近な自然を活かした保育実践とカリキュラム」松元信吾著より

共に喜びあえる生活

新緑に覆われた園庭で、木々や花々や遊具たちが新しい子どもたちを優しく待っているようです。地中で冬を越した球根から、今年もアマリリスの花が咲き始めました。サクラの後は、春めいた日差しが白やピンクに咲き誇るツツジに降り注いでいます。ご入園、ご進級おめでとうございます。改めて続くご縁と新しいご縁に心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願うものと思います。

本年度のキリスト教保育の年間主題は、「共に喜んでくすべの歩みの中」が示されました。年間主題は保育目標として位置づけられています。当たり前に行ってきたことが、容易にできなかつたコロナ禍。それでも、一通りの行事や活動が達成できたことは、まことに恵まれたことで感謝でした。そのことに思いを馳せながら日々の保育の中で、共に喜ぶことの意味をしっかりと考えていきたいと思っております。何より大事なことは、子どもたちとは、互いに神さまに命を与えられ、特別に出会わせていただいた関係であるということです。あらゆる時に、一緒に祈り、讃美し、心の平安を与えられていること。豊かな自然の中で、感性を震わせる体験を重ねること。子ども同士、保育者と子どもたちが思いや考えを出し合って遊びや生活を創り出すこと。そして、神さまによって与えられた子どもたちの命と成長の1コマを、保護者の皆さんと共有し共感できることなど。一緒に子どもたちを愛し育てる関係を築きながら、共に喜びあえらばと願うものです。

また、子どもの育ちには、「タイケン・タンケン・タイエン」が必要だと考えています。保育活動や行事で味わう様々な体験(吸収)。未知の世界へ興味・関心を寄せる探検(探求)。そして、少し大変(克己)なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズで共に育ち合えれば幸いです。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。「何より「だじょうぶだよ!」という言葉が安心へと導きます。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えないものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にあります。神さまが与えて下さるこの環境の中で、共に喜ぶ生活を目標として参ります。子どもたちがいるがままの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添うことができよう努力してまいります。

首都圏の緊急事態宣言が解除され、ようやく一息ついたと思つたのもつかの間。早くも「第四波」とも言える状況になりつつあります。ワクチン接種の効果にも期待が高まりますが、国民一人一人の意識が何よりも必要です。互いに協力しながら乗り越えて参ります。六十四年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参ります。何卒ご支援の程を宜しくお願いいたします。

園長